

地域力パワーアップ大会

～地域ので楽しく年を重ねよう～

- 日時** 平成29年7月2日（日）14時00分～16時00分
場所 松山市民会館 中ホール
主催 松山市（市民参画まちづくり課）
後援 松山市教育委員会
目的 松山市では、住民主体のまちづくりを推進するため、地域活動を行う町内会や公民館、地区社協、PTAなど各種団体や個人・企業等を、ゆるやかなネットワークで結ぶ住民自治組織「まちづくり協議会」の設立や運営支援を行っている。
大会を通じて「まちづくり協議会」とは何か、その取り組みを分かりやすく紹介し、市民に広く知ってもらい、地域のまちづくりについて考える機会となるよう開催する。

出席者

《松山市》

西泉副市長、唐崎市民部長

《来賓》

松山市議会議員	市民福祉委員会委員長	吉富健一	氏
松山市議会議員	市民福祉委員会委員	池本俊英	氏
同上		清水尚美	氏
同上		角田敏郎	氏
同上		池田美恵	氏
松山市公民館連絡協議会	会長	永原 修	氏
松山市地区社会福祉協議会連絡会	会長	上原光代	氏
松山市地域協働団体連絡会	会長	福山勝幸	氏
松山市自主防災組織ネットワーク会議	会長	吉金 茂	氏
松山市小中学校PTA連合会	会長	高田智世	氏

《事例発表》

三津浜地区まちづくり協議会	福祉部長	石崎智行	氏
八坂地区まちづくり協議会	事務局長	山岡 堯	氏
石井地区まちづくり協議会	福祉部長	高岡順子	氏

《意見交換》

上記事例発表者 3名

地域包括支援センター三津浜 井手理恵 氏

地域包括支援センター東・拓南 木山弘美 氏

石井地区まちづくり協議会 会長 丹下正勝 氏

松山市コミュニティ・アドバイザー 讃岐幸治 氏

同上 若松進一 氏

同上 前田眞 氏

来場者 約270名

司会：丹下遥香（市民参画まちづくり課）

内容

1. 開会

2. オープニング

「風の里 ^{ふわり} 風和里」演奏

「風早バンド THE よもだーず」

3. 副市長あいさつ

4. 来賓紹介

5. 大会目的・プログラム紹介

6. 第一部 事例発表

◆三津浜地区「高齢者のつどい」

- ・三津浜地区の紹介
- ・高齢化率は約37%と、高い数値となっており、家に引きこもりがちな高齢者が増加している。
- ・高齢者に外出してもらうためのきっかけを作るため、「高齢者のつどい」を始めた。
- ・今年で5年目になり、年3回、10時～12時に行っ



ており、参加者は毎回約 40 名。

- ・地域包括支援センターと協働で行っている。
- ・地域包括支援センターとは、地域に暮らす人たちの介護予防や、日々の暮らしを、様々な側面からサポート。高齢者はもちろん家族や地域住民の悩み相談を適切な機関と連携して解釈に導く。

- ・協働について

まち協：専門的な知識や見識を活かしたアドバイスを受けられるなどの利点。

互いに力を合わせることで負担を軽減。

包括：住民全体と関わることができ、センターの存在を多くの人に知ってもらうことができるなどの利点。

- ・活動の成果

まち協：さまざまなメニューを提供してもらえることで、活動の幅が広がり、参加者増加。

包括：高齢者と関わる中で相談業務に繋がることや、介護予防の支援にもなる。

- ・今後の展望

まち協：参加者が固定化されつつあるので、他の高齢者へも参加を呼びかけたい。

包括：まち協と関わりながら、幅広い世代と交流していきたい。

◆八坂地区「ふれあいカフェ」

- ・八坂地区の紹介。
- ・高齢化率は約 30%で中心部の地区と比べて、高齢化が進んでいる地区。
- ・高齢者が気軽に集える場所があれば、引きこもりがちな高齢者が外出するきっかけを作ることができるのではないかと考えた。
- ・八坂地区には公共施設が少ないため、場所を探すことが課題となったが、西法寺の住職から場所の提供を提案。(申し出)
- ・「ふれあいカフェ」は、平成 27 年 1 月にオープンし、毎週木曜日の 10 時～16 時に実施。
- ・午前中には本堂で「健康体操」が行われており、健康づくりを行うこともできる。

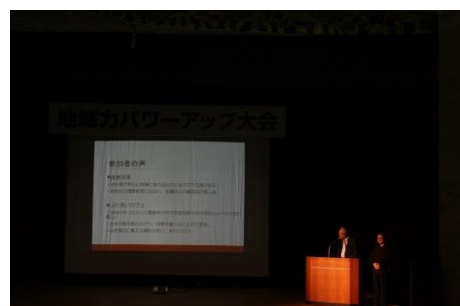
- ・参加者の声

体操参加者：参加者全体が熱心に取り組んでいるので、それを見てやる気が出る。

住職さんの御説法が楽しみなど。

カフェ参加者：お寺のゆったりした雰囲気の中で、お茶やおしゃべりを楽しむことができている。公民館の周辺に住んでいない人にとっては、自宅の近くにこのような集まる場があることがありがたいなど。

- ・課題として、カフェのお客さんのほとんどが、体操帰りの人になっており、体操がお昼頃に終わるため、カフェに来る人が少なく、固定化もされてきている。



- ・ 今後は、地区内での協力体制を強化して、たくさんの人が交流できる場にしていきたい。
- ・ 地区の人が気軽に立ち寄ることのできる、身近な憩いの場を目指す。

◆石井地区「いきいき脳教室サロン」

- ・ 石井地区の紹介
- ・ 生産人口が多いため、松山市の中では高齢化率は低いが、高齢者数は多い現状。
- ・ 住民参加の「互助」と「支え合い」を身近なところで、多くの人に実感してもらう「小地域福祉活動」の推進に努めている。
- ・ 「脳の健康教室」がテーマの講演会への参加をきっかけに「いきいき脳教室サロン」を実施。
- ・ 「いきいき脳教室サロン」の目的として主に3点あり、「脳の健康」（脳の活性化により認知症予防）「地域の仲間作りからの社会参加」「社協・地域社会・行政が協働して、人を繋ぎ、夢を紡いでいく」を掲げている。
- ・ 会場は、7地区で各会場、毎週1回、午前中約2時間開催され、基本的には受講者2名に対し、サポーター1名がつく。
- ・ 今年度からサロンとして活動。
- ・ 介護予防運動で体をほぐし、読み書き・計算・数字盤や塗り絵などを、30分以上行う。
- ・ 教室の成果として、MMSE（認知機能検査）を実施しており、最近では、約7割の人がMMSEの得点がアップ又は維持している。
- ・ この活動を通じて、教室では脳の健康維持や改善だけでなく、仲間づくりや地域づくりにも有効な手段であると実感した。
- ・ 教室を支えるスタッフが増加やスキル向上により、地域力のアップにつながる。



7. 第二部 意見交換

コーディネーター：前田眞アドバイザー

●今回の事業についてどんな役割で取り組んだのかも含めて簡単な自己紹介

(三津浜まち協 石崎氏)

- ・ 部を4つ作った中のひとつが福祉部でその部長を仰せつかった。
- ・ 高齢者福祉について議論をしたが全容がなかなか見えてこないため、会議するだけでなく実際にやってみようということが始まりで、高齢クラブに協力してもらい第1回を始めた。



(包括三津浜 井手氏)

- ・地域包括支援センターの役割が、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることを目的に活動しているため、その観点から、まち協と協働して取り組むことで日々の業務に繋がっていくと思っている。

(八坂まち協 山岡氏)

- ・八坂まち協は今年で5年になるが、2年ごとに大きな変革がある。最初の2年間は試行錯誤の年、次の2年間はイベントを中心にまち協を運営した。
- ・八坂地区のみんなが集まる場所は、公民館1つしかなかったが、民間の場所や集会所などみんなが集まる場所もない、公民館も行事がっばいで使えない。そんな状況で、困っていた時に、お寺の方が場所の提供を申し入れてくれた。
- ・皆が集まれる拠点作りが大事であると感じる。
- ・今後の2年間は他のまち協を参考に、部単位で事業を考え、トップダウンではなく、ボトムアップで、事業を展開していこうと思う。
- ・福祉部でやっている健康体操は、地域包括支援センターのご協力で始まった。



(包括東・拓南 木山氏)

- ・介護予防の拠点づくりに力を入れており、拓南エリアでは健康教室を先に立ち上げていた。
- ・公民館等では、費用もかかるため場所と費用が課題となっていた時に、お寺でカフェをやっているという情報を得て、協働できないか模索した。
- ・最近、事務所が八坂地区へ引っ越しとなったため、これを機に八坂地区とも繋がりを持ちたいと思い、今年から八坂まち協に入らせてもらい、一緒に活動している。

(石井まち協 高岡氏)

- ・石井は、東と西地区に分かれており、私は、東地区の民生児童委員協議会と社会福祉協議会の会長を務めており、まちづくり協議会の福祉部長も務めている。
- ・超高齢社会の中で認知症の問題がクローズアップされる中、多くの人が認知症に対する理解が必要と感じたため、認知症サポーター養成講座を各町内会で開催した。
- ・同時に、これからの高齢社会の中で、学習療法や介護予防を日々の生活の一部に取り入れていただくことを地域に根差そうということで、「脳教室サロン」を行っている。

(石井まち協 丹下氏)

- ・私は、今年の5月から石井まち協の会長に就任した。
- ・まちづくりを考える中で、福祉の関係は避けて通れないことから、前面に出していく方策の1つが

この「脳教室サロン」である。

- ・脳トレにはサポーターが必要でこれからサポーター養成をどうしていくか考えている。
- ・これからは、トップダウンではなく、ボトムアップでまちづくりを行っていくために動いている。



●今年高齢者に焦点を当てたテーマとなっているが、もう少し掘り下げて聞いてみたいことや御意見があるか（会場）

（会場）

Q 石井地区について、認知症について精力的に取り組んでいるということだが、認知症については専門医等が必要と思われるが、その点についてはどのようなコンタクトをとっているか教えて欲しい。

（石井まち協 高岡氏）

- ・特別なコンタクトは取っていない。ただ、学習者の中で専門医に「脳教室」の話をしたら、絶対に続けなさいというようなことを言われたと聞いたことはある。

（会場）

Q 個人情報についての入手や対策はどのように考えているか。



（石井まち協 丹下氏）

- ・認知症についてなどについては個人情報の入手等はしていない。例えば、災害時の要支援者の名簿については、松山市と協定を締結して情報（名簿）をいただいている。

（三津浜まち協 石崎氏）

- ・三津浜地区では、個人情報の取扱については作成中。現在、個人情報自体は、まち協としてまだ持っていない。

（八坂まち協 山岡氏）

- ・八坂まち協が敬老会を主催しているため、各町内から情報をいただいている。ただし、町内会によっては、個人情報を理由に提供していただけない場合がある。その場合は、敬老会にお弁当がいるなどの該当者のみ情報を提供いただいている。
- ・使用目的をはっきりさせることが重要だと思う。

(会場)

Q 認知症対策についての事例発表が多かったと思うが、介護予防の一環として外出も推進するような取組もあるのではないかと。各まち協ではどのようにお考えか。

(石井まち協 丹下氏)

- ・参加型というのが大事になる。費用や場所、人材の問題もあるが出会いの場づくりもまちづくりとして取り組んでいきたい。
- ・地域包括支援センターとも様々な形で協力していきたいと思っている。

(会場)

Q 認知症になった方の関わり方の勉強会があれば良いと思う。また、認定を受けていない方や要支援の方と要介護者の間を取り持つのが地域包括支援センターの役割だと思う。そこで、八坂まち協のふれあいカフェについて、要介護認定者も参加しているのか。

(包括東・拓南 木山氏)

- ・参加者の中にも要支援認定者や、認定申請をすれば認定が出そうな方もいる。それでも、介護認定を受けずに地域の方の見守りを受けながら、自宅で生活されている方もいる。
- ・専門家にも相談したところ、地域のサポートで生活が出来るなら、無理に介護認定を受ける必要はないのではとの意見もいただいている。



(会場)

Q こういった場所があり、集まりがあることがあることは素晴らしいと思うが、決して強要してはならないので気を付けていただきたいと思いますと思うがどうか。

(石井まち協 高岡氏)

- ・「脳教室」の平均年齢は80歳くらいで、介護認定を受けている方もいる。家族とサポーターの協力で成り立っている部分もあるため、家族との連携が大事というのは感じている。

●この活動に関わることでどのような変化があったのか

(三津浜まち協 石崎氏)

- ・最初は、あまり乗り気でない参加者が多く見受けられたが、やっていくうちに仲間意識ができて

積極的に皆さんが動いてくれるようになった。

- ・目がいきいきとしてきて、自分がどのような役割をすればいいか等考えて動いてくれている。地域包括支援センター三津浜も非常によく手伝ってくれている。

(包括東・拓南 木山氏)

- ・最初は包括職員主導で行っていたが、今は自主運営となっており、参加者1人1人に責任感が出てきている。今後はサロンへ切り替えをしていく予定となっている。
- ・包括としても「健康教室」の中に認知症の方もいるため、月に1回程度様子を見に行き相談があれば聞いていきたい。

(石井まち協 高岡氏)

- ・サポーターをはじめ民生委員や町内会の役員の方などの多くの方が、いい意味で問題意識をもって地域を見渡せるようになったと思う。支える人と支えられる人が共に、気にかけて見守っていけるような地域になりつつある。

●今後の展望について

(三津浜まち協 石崎氏)

- ・参加者の固定化進んでいるので、いかに地域の方を呼び込むかいくか考えていきたい。また、参加者などの意見や関心事をもう少し取り入れていけるようにしていきたい。

(八坂まち協 山岡氏)

- ・まち協に協力していただける人をどのように広げていくかという課題がある。そのために、様々な事業を広げていきたい。

(石井まち協 高岡氏)

- ・サポーターのほとんどが松山市地域サービス事業の協力会員であり、包括支援センターなどと協力してサポーターを増やしていきたい。



●アドバイザー意見や感想

(讃岐アドバイザー)

- ・高齢者のためのまちづくりとなっているが、高齢者によるまちづくりもあってよいと思った。

- ・高齢者は経験や知識もあるため、受け身でなく主体的に高齢者の意見等をまちづくりに活かしていただきたい。
- ・知識や知恵、経験が若い世代に伝わっていないように感じる。
- ・まち協には3つの役割があるように感じた。
- ・1つは「広げる」という役割。
- ・2つ目は「重ねる」という役割。必要なことに必要な団体を集めるなど。
- ・3つ目は「地区のシンボルを作り上げていく」

(若松アドバイザー)

- ・3つ気づいたことがある。
- ・1つ目は、まち協と高齢化社会を繋ぐキーワードが地域包括支援センターではないか。その意味では、いかに地域包括支援センターを使いこなすかが必要になるように思う。
- ・2つ目は、地域づくりの拠点は公民館だけではなくなっている。お寺を活用することはとても面白いと思った。西法寺の横には、青少年センターがあるが、ここには若者が多く集まっている。西法寺と青少年センターを繋ぐことが出来れば、世代を超えた交流ができるのではないか。
- ・3つ目は、まち協が、なかなか浸透しづらいと考えているところもあると思うが、核になる組織をいくつも作りあげていき、巻き込んでいくようなことをしなければならないと思う。
- ・ゴミは、不燃物と可燃物と自燃物と類燃物とあるが、これを人に例えると「言われてもやらない人」「言われたらやる人」「自らやる人」「周りを巻き込みつつ自らやる人」と分けることが出来る。不燃人は、全体の55%と言われている。この地域力パワーアップ大会を通して、不燃人を可燃人に、可燃人を自燃人に、自燃人を類燃人に変えていくことが大切だと思っている。



8. 閉会挨拶（唐崎市民部長）

